

【「飛驒の匠に竹田の番匠」】神田の田植え囃子の一節「宮島様の御普請には、どなたが棟梁なされた 飛驒の匠に竹田の番匠、兩人棟梁なされた」とあり、竹田の大工は飛驒大工とともに名匠とされ、禁裡（天皇の住居）も手がけたという。愛染堂は、日光の造営に関係した飛驒の匠と、竹田番匠宗作右衛門によって協働された。

竹田の田植え囃子の一節「宮島様の御普請には、どなたが棟梁なされた飛驒の匠に竹田の番匠、兩人棟梁なされた」と同様に、近世中期のものと推定される玖波の田植え唄として「明神様の御普請には、どなたが大工をなされた飛驒の匠に竹田の番匠、兩人棟梁なされた」とあり、明神様とは玖波の大歳神社を指しますが、厳島神社修復のために訪れていた「飛驒の匠に竹田の番匠」厳島合戦で焼失した社殿も再建して貰ったのだと推測できます。その後も、厳島社の造営にかかわる番匠が住みついたと思えます。玖波には大工技術も集積されていたと思えます。